

児童期以後の情報機器使用が、 青年期の生活や人格に及ぼす影響について その1．短大生と大学生、及び男女の差から見た、 青年の情報機器使用と生活の実態

萩原英敏

（2010年10月6日受理）

要 約

情報機器の使用が人格にどう影響するかを知る為、首都圏の短大生260名（女性）、大学生（女性191名、男性152名）、計603名を対象にアンケート調査を行った。そして、今回の報告はその1として、短大生と大学生の差、男女の差を中心に、青年の情報機器の使用と生活の実態を調べたものである。その結果、以下の事が明らかになった。

1. 情報機器の使用に関して、短大生と大学生で有意な差が認められたものは、次の6つの項目である。①一番使用する機器で、短大生の方が「携帯メール」を挙げた者が多い。②視聴の全時間は短大生の方が長い。③携帯メールの使用時間は、短大生の方が長い。④携帯インターネットの使用時間は、短大生の方が長い。⑤携帯読書の使用時間は、短大生の方が長い。⑥一日のメール数では、短大生の方が多い。
2. 情報機器の使用に関して、男女間で有意な差が認められたものは、次の2つの項目である。①男性が携帯ゲームの使用時間が長い。②インターネットの使用時間は、女性の方が男性より長い。
3. 現在の生活や考えで、短大生と大学生で有意な差が認められたものは、次の2つの項目である。①絵・写真や音楽の情報は短大生が好き。②短大生は「親」に一番認めてもらいたいと考えてる者が多い。
4. 現在の生活や考えで、男女間で有意な差が認められたものは、次の2つの項目である。①男性が排便で、「スムーズ」な者が多い。②女性が眼に疲れを感じるものが多い。

キーワード 青年、情報機器、使用、生活、性差

1

I. はじめに

筆者が講義を始めようとしても、まだ携帯電話を手に持ち、講義への心の準備が出

来ないでいる学生が、ちらほら見受けられる。また、電車に乗っていると、半数前後の人達が携帯電話など種々のInformation Technology機器（以下IT機器）を使って、乗車時間を過している。

筆者の様な、IT時代の前の時代を長く過ごし、またここ数十年間の目覚ましいIT機器の進歩の中に生きてる人間にとって、このIT社会と、どう向きあっていけばいいのかは、1つの大きな課題である。またそれ以上に筆者の関心のある事は、このIT機器の使用が、人格形成にどのような影響を及ぼすか、という事である。

最近の用語に「利便性」という言葉があるが、これは「便利性」という言葉を逆に用いた言葉であろうし、この便利性を追求してやまないIT機器を利用する事は、人格形成にプラスの面もあるが、マイナス面もあろう。プラス面は良いことをして、もしマイナス面が多く現出したとしたら、その面をなるべく少なく抑える為の条件作りを考える必要があるのではないか。これがIT時代の前時代を知ってる筆者等の世代の課された問題の様に思えて、研究に取り組んでみた。

この問題で、最初に話題になったのは、岡田尊司著「脳内汚染」¹⁾であろう。氏は本文の中で、「いまIT社会に生きる我々が直面している問題は、情報による心の中の環境汚染である。一日たりとも、過剰な情報のシャワーを浴びずには、生きた心地がしない情報依存症があるからだ。しかもそこには、巨大な利権がからみ、大勢の人々の思惑が交差している」と述べている。そして後述する魚住絹代の寝屋川市を中心とした調査などから、「依存症など、さまざまな弊害の危険は、感受性の高い子どもを含め若者の年齢で接触すればするほど高まる。この状況を作り出す原因の1つが、ある思い込みである。それは退屈させる事が悪いという思い込みである。それ故、絶えず刺激を与えられ、受動的に自分を紛らわしてもらう事に慣れさせられている。子どもや若者を退屈にさせる事は悪い事ではない。むしろ逆で、程良く退屈させる事は、心の発達に必要であり、自発性を育てる原点である。退屈すれば、手近なもので遊びはじめるであろう。」と述べ、過剰な情報という刺激を絶えず与えられている、子どもや若者の危険性を、脳内汚染という言葉で表現している。

また同年、柳田邦男は「壊れる日本人—ケータイ・ネット依存症への告別」²⁾で、次の様な事を述べている。「『楽をすれば、必ず失うものがある』すなわち、IT革命の影の部分は見えにくいだが、若者達の心をゆがませる。」と言い、そして「ある大学で2ヶ月間、ケータイ電話の使用を禁止した実験例を紹介し、若者はだんだん物事を自分でゆっくりと考える様になった事を明らかにしている。そしてIT革命が目ざす効率主義（利便性重視）から削ぎ落とされた、ナイーブな感性、画一的でない対人対応の仕事の仕方、豊かで味わいのある言葉、ゆとりや間や沈黙、またそこから生じる葛藤などが消失する事はあっても、なかなか回復しない現代の危機を表明している。」

またインターネットを心理学視座でとらえたものに、A. N. ジョインソン著「インターネットにおける行動と心理」³⁾がある。氏は「『インターネットは書き言葉を話し言葉に近づけた』とし、この話言葉への移行は、言葉の文法、スペルのミスに関わら

ず、それ自体、心理的過程に多大な影響を与えるとした。その影響が大きいインターネット依存症について、モラハン、マーティンとシューマッハの研究⁴⁾を紹介している。彼等は、依存傾向のある若者は、どんな目的で使用しているのか、13項目を挙げ、277人の若者にアンケートをとった。その結果、・新たな人々との出会い・成人向けコンテンツ・情緒的なサポート・同じ興味を持つ他人との会話・ゲーム・気晴らしやリラクゼーション・ギャンブル・バーチャルリアリティ・ひまつぶし・新しい技術的進化への追従などが挙げたとしている。

この他、インターネット利用に性差があるという、アメリカ、ピュー財団『インターネットとアメリカ人の生活』⁵⁾を紹介している。それによれば、女性のインターネット利用法が、特にPersonal Computer（以下PC）や携帯メールについて、男性と有意に異なっているという。例えば、家族と友人とのコミュニケーションの為に、PCや携帯メールが有用であると考えている割合は、女性が家族で70%、友人で71%に対して、男性では家族で51%、友人で61%であった。また、女性はPCや携帯メールを受け取ることを期待する傾向が有意に高かった。これらの結果に対して、Bonava, et al.⁶⁾は、女性の人間関係は男性に比べて、個人的かつ情緒的な親密性とコミュニケーションを通して維持される傾向が強い為ではないか、と説明している。」

さらに、これはインターネットというIT機器を直接問題にしたものではないが、Informaitonの内容について書かれたものがある。それは、松永和紀の「メディア・バイアス あやしい健康情報とニセ化学」⁷⁾である。氏は自身の新聞記者という体験を通して、最近の情報の危険性を警告している。氏は本文で「世間に氾濫する、とんでもない科学報道、例えば納豆ダイエット捏造騒動など、これを機に、健康情報番組の問題点は知られる様になった。しかし、テレビを批判する新聞や週刊誌にも、あやしい健康情報や科学情報（マイナスイオン効果、血液型と性格など）がいっぱいある。そこにはセンセーショナルな話題に引っ張られるメディアの構造、また記者の不勉強や、話だけ聞いて情報を吟味せずトクダネ争いだけしか眼中にないメディア関係者が存在する。また、ジャーナリストの原寿雄が『平和より戦争、秩序より混乱、日常性より異常性が選ばれ、明るい話はニュースになりにくい』と述べているように、原子力発電所や食品添加物など、読者に危ないという不安を与える情報が多い。これは、メディア関係者は、危ないと書く方が楽である。後で安全だと分かっても非難されることはあまりない。逆に安全だと書いて、後で危険と分かたら、非難される可能性はきわめて高い。と、メディア関係者の自己防衛の構造を明らかにしている。」以上の記述から読み取れる、メディア・バイアスの問題は、「情報はよく吟味され、客観的事実として、受け手に流されているもの」という前提が、くつがえされたという事である。これは情報は疑いを持ってとらえていく必要性が大いにあるという事を、より認識させる事にもなった。ところが、IT機器を使う体験の少ない若者の多くは、紙の活字から離れて情報を得る事が多いので、見出しのみしか書かれてないものや、センセーショナルな情報に多くさらされる危険性を持っているのである。

最後に、本研究の質問設定や結果考察に参考にし、また日本で初めて大がかりにこのIT機器の影響を調べ、前述の「脳内汚染」の参考資料としても使われている、魚住絹代著「いまだ中学生白書」⁸⁾を見ていく。氏は本文で「メディア（インターネット、携帯電話、ゲームなどのパーソナル・メディアを指す）の利用状況だけでなく、どういった子が、どういう影響を受けやすいかの傾向を分析している。その為、生活スタイルや行動パターン、これまでの育てられ方、性格、嗜好、家庭環境、メディア利用などを質問項目に加えている。そしてその対象者は、寝屋川市を中心に長崎県、東京都の中学生及びその保護者で、4,762名になっている。回答数は3,500名である。そしてその結果、氏は、メディアは、子どもの心にオペレーティング・システム（Operating System（以下OS））として組み込まれ、ライフスタイルや価値観などを左右している。そしてこれは決して子ども達だけの話ではない。二十代、三十代おそらくもっと上の年代も当てはまる」と述べている。

以上、筆者が課題にしたIT機器に関する研究や論述は、最近数多く出されている。この様な先行研究や論述を参考に、本研究の今回の発表内容は、魚住絹代氏が指摘した「中学生だけでなくそれ以上の年代も当てはまる」という視点の中で、（A）情報機器の使用の実態、（B）現在の生活や考えの実態、のみに関して、二十代の若者を対象とした結果報告である。その為、今回の考察においては、魚住絹代氏の結果と比較したものが多い。さらに今回の対象者は、男女の大学生、女子のみの短大生だったので、1. 性差により、IT機器の使用や生活、考えにどのような違いが見られるか。2. 女性でも大学生と短大生では、IT機器の使用や生活、考えにどのような違いがみられるかを見た。そこで「（A）情報機器の使用、（B）現在の生活や考え、の関連性」また、問題のもう1つの柱である。なお「人格形成への影響」は、紙面の都合で、次回以後に報告する事にする。

Ⅱ. 方法

1. 対象者

首都圏のT短大生（女子）	260名
首都圏のI大生（女子）	191名
I大生（男子）	152名
合計	603名

2. 調査時期

2009年4月～2010年4月

3. 調査内容

本研究の目的を達成する為、{(A) 情報機器の使用に関して、(B) 現在の生活

や考えに関して、（C）性格に関して} の37項目から成るアンケート調査項目を設定した。この中で、今回報告する（A）（B）の計17項目は、魚住絹代氏の作成したものを参考に、大学生、また今日のIT機器に合う様に、独自に作成したものである。（資料1）

4. 分析方法

SPSSによる単純集計、カイ二乗検定

Ⅲ. 結果及び考察

（A）情報機器の使用に関して

Q1. 一番使用している機器

表1 一番使用している機器（T短大生）

使用している機器	携帯メール	携帯電話	I-PAD	PCメール	携帯ゲーム	PCゲーム	携帯インターネット
N	157	35	6	0	1	0	35
%	60.4	13.5	2.3	—	0.4	—	13.5
使用している機器	P インターネット	携帯読書	テレビ	DVD	ラジオ	C D	その他
N	2	1	21	0	0	0	2
%	0.8	0.4	8.1	—	—	—	0.8

表2 一番使用している機器（I大生—女性）

使用している機器	携帯メール	携帯電話	I-PAD	PCメール	携帯ゲーム	PCゲーム	携帯インターネット
N	100	19	11	1	0	0	25
%	52.4	9.9	5.8	0.5	—	—	13.1
使用している機器	P インターネット	携帯読書	テレビ	DVD	ラジオ	C D	その他
N	15	0	18	2	0	0	0
%	7.9	—	9.4	1.0	—	—	—

表3 一番使用している機器（I大生一男性）

使用している機器	携帯メール	携帯電話	I-PAD	PCメール	携帯ゲーム	PCゲーム	携帯インターネット
N	61	20	13	0	1	2	17
%	40.4	13.2	8.6	—	0.7	1.3	11.3
使用している機器	P C インターネット	携帯読書	テレビ	D V D	ラジオ	C D	その他
N	23	1	12	0	1	0	0
%	15.2	0.7	7.8	—	0.6	—	—

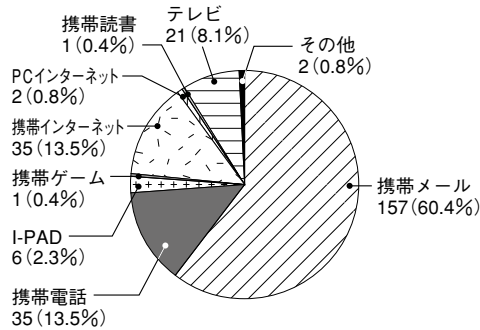


図1 一番使用している機器（T短大生）

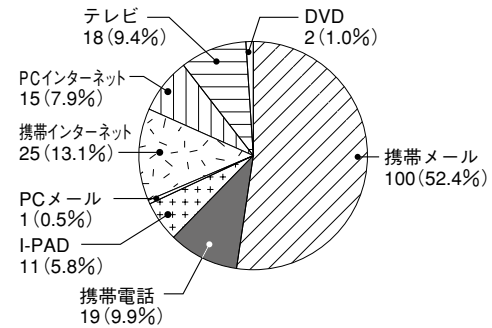


図2 一番使用している機器（I大生一女性）

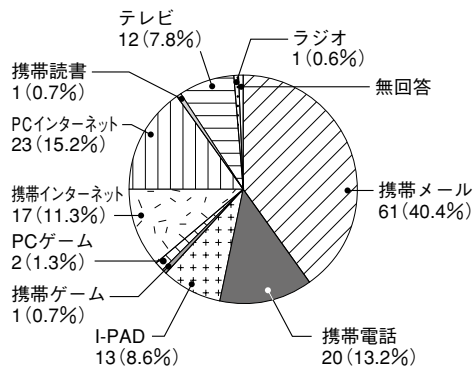


図3 一番使用している機器（I大生一男性）

表 4

	T 短大生	I 大生－女性	I 大生－男性	
I 大生－女性	**		N.S.	**…1%有意
I 大生－男性	**			

Q 1 の質問は順位を書くものだったが、全部書けている回答が少なかったので、一番使用している機器の人数で整理してみた。それによると、表 1～3、図 1～3、及び表 4 からわかる様に、T 短大生と I 大生の間に、1%有意差が認められた。この差に大きく影響したのは、携帯メールを最も多く使用していると挙げてる、短大生の方が、大学生の数を大きく上回った為だと考えられる。今回の調査対象の I 大は、学力面でかなり高い学生と考えられ、短大生との差はある程度考えられる。前述の魚住絹代氏の調査において、「1 日 50 通を超すメール族は、ほとんど勉強しないと答えた割合が 43.3%と、メールを全くしない子の 2.7 倍多いという事から、メールを頻繁にする子ほど学習時間が短い」と報告している。この結果から、中学生の傾向は、20 歳前後の大学生にも当てはまると考えられる。一方、大学生の使用機器に対する性差は認められなかった。

Q 2. IT 機器の視聴の全時間

表 5 視聴の全時間（T 短大生）

視聴の全時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	0	5	8	29	26	43	44	105
%	—	1.9	3.1	11.2	10.0	16.5	16.9	40.4

表 6 視聴の全時間（I 大生－女性）

視聴の全時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	0	5	9	31	40	43	30	30
%	—	2.7	4.8	16.5	21.3	22.9	16.0	16.0

表 7 視聴の全時間（I 大生－男性）

視聴の全時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	0	0	10	32	24	36	23	26
%	—	—	6.6	21.2	15.9	23.8	15.2	17.2

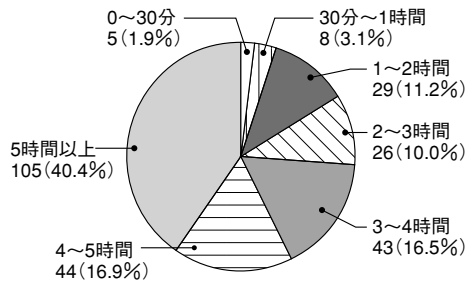


図 4 視聴の全時間（T 短大生）

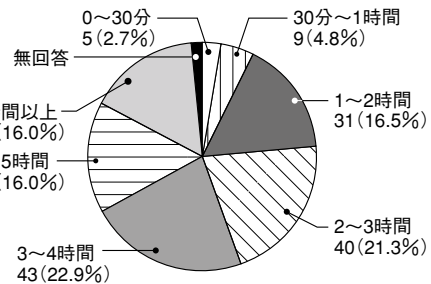


図 5 視聴の全時間（I 大生－女性）

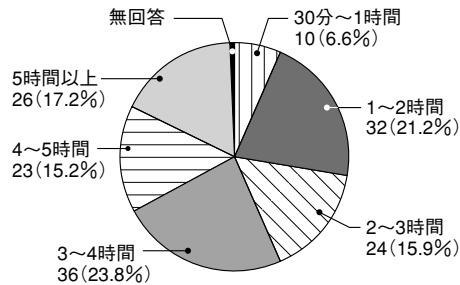


図 6 視聴の全時間（I 大生－男性）

表 8

	T 短大生	I 大生－女性	I 大生－男性
I 大生－女性	**		N.S.
I 大生－男性	**		

**…1%有意

表 5～7、図 4～6、及び表 8 からわかる様に、T 短大生と I 大生の間に、1% 有意差が認められた。すなわち T 短大生の方が、I 大生より、長時間 IT 機器を視聴している事になる。なお大学生の視聴時間の性差は認められなかった。

Q 3. 携帯メールの使用時間

表 9 携帯メールの使用時間（T 短大生）

携帯メールの使用時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	2	28	48	45	31	37	17	50
%	0.8	10.9	18.6	17.4	12.0	14.3	6.6	19.4

表10 携帯メールの使用時間（I 大生一女性）

携帯メールの使用時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	1	70	51	43	12	10	1	2
%	0.5	36.8	26.8	22.6	6.3	5.3	0.5	1.1

表11 携帯メールの使用時間（I 大生一男性）

携帯メールの使用時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	4	64	51	20	6	3	1	2
%	2.6	42.4	33.8	13.2	4.0	2.0	0.7	1.3

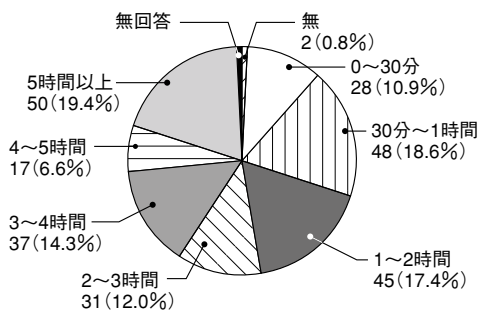


図 7 携帯メールの使用時間（T 短大生）

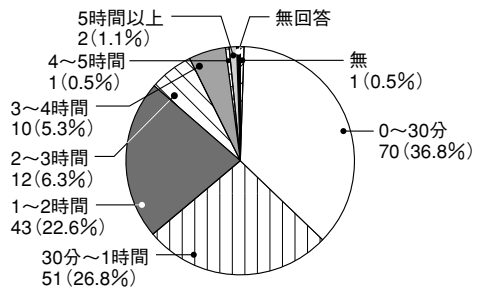


図 8 携帯メールの使用時間（I 大生一女性）

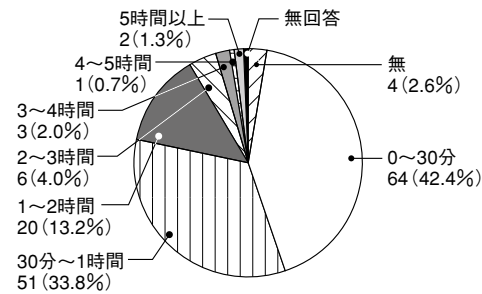


図9 携帯メールの使用時間（I大生－男性）

表12

	T短大生	I大生－女性	I大生－男性
I大生－女性	**		N.S.
I大生－男性	**		

**…1%有意

表9～11、図7～9、及び表12からわかる様に、T短大生が有意にI大生より携帯メールの使用時間の長い事がわかった。この事はQ1の考察を裏付けるものとなった。なお性差については、大学生の場合、前述のアメリカ、ピュー財団研究のメール対象や内容の差は調査内容に含まれていないので不明であるが、使用時間においては、差は認められなかった。

Q4. 携帯ゲームの使用時間

表13 携帯ゲームの使用時間（T短大生）

携帯ゲームの使用時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	126	88	28	9	2	1	2	2
%	48.8	34.1	10.9	3.5	0.8	0.4	0.8	0.8

表14 携帯ゲームの使用時間（I大生－女性）

携帯ゲームの使用時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	115	53	11	4	5	1	1	0
%	60.5	27.9	5.8	2.1	2.6	0.5	0.5	—

表15 携帯ゲームの使用時間（I大生－男性）

携帯ゲームの使用時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	68	52	22	6	1	2	1	0
%	44.7	34.2	14.5	3.9	0.7	1.3	0.7	—

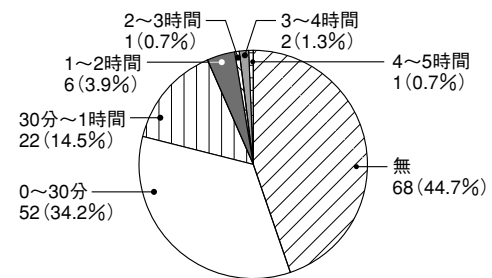
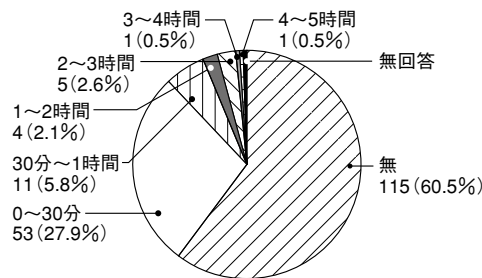


図10 携帯ゲームの使用時間（I大生－女性）

図11 携帯ゲームの使用時間（I大生－男性）

表16

	T短大生	I大生－女性	I大生－男性
I大生－女性	N.S.		**
I大生－男性	**		

**…1%有意

表13～表15、図10、11及び表16からわかる様に、I大生－男性が、女性及びT短大生より、有意に携帯ゲームの使用時間の長い事がわかった。これは前述の魚住絹代氏が行なった調査結果から「中学生が熱中するメディアは、男性は圧倒的にゲーム、女性はネット・メール」と述べている様に、中学生の頃から、男性はゲームに熱中する傾向にあり、20歳前後になった大学生でも、この傾向をもち続けている事が明らかになった。

Q 5. 携帯インターネットの使用時間

表17 携帯インターネットの使用時間（T短大生）

携帯インターネットの使用時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	13	45	55	60	19	23	19	26
%	5.0	17.3	21.2	23.1	7.3	8.8	7.3	10.0

表18 携帯インターネットの使用時間（I大生一女性）

携帯インターネットの使用時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	18	54	40	40	21	9	6	2
%	9.5	28.4	21.1	21.1	11.1	4.7	3.2	1.1

表19 携帯インターネットの使用時間（I大生一男性）

携帯インターネットの使用時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	14	58	45	19	9	2	2	3
%	9.2	38.2	29.6	12.5	5.9	1.3	1.3	2.0

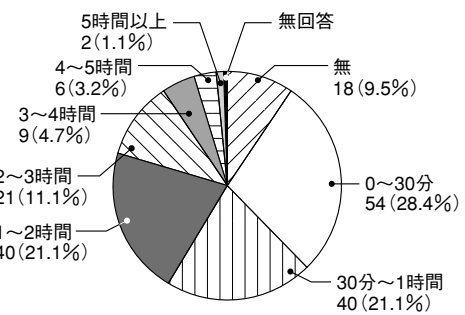
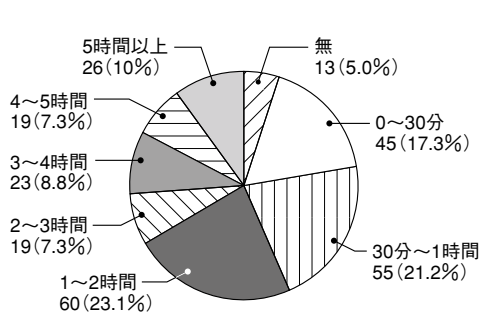


図12 携帯インターネットの使用時間（T短大生）

図13 携帯インターネットの使用時間（I大生一女性）

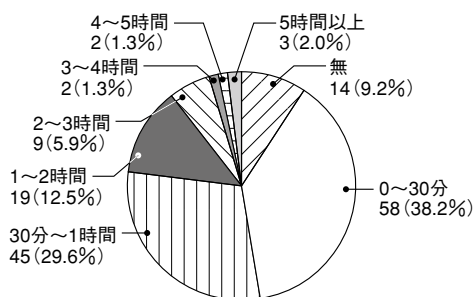


図14 携帯インターネットの使用時間（I大生－男性）

表20

	T短大生	I大生－女性	I大生－男性
I大生－女性	**		*
I大生－男性	**		

***…1%有意

* …5%有意

表17～19、図12～14、及び表20からわかる様に、T短大生がI大生より、1%有意の差、I大生の女性が男性より、5%有意の差で、使用時間が多い事がわかった。すなわちメール以外のインターネットにおいても、女性の方が男性より携帯をよく使っているという事がわかる。また短大生の方が大学生より携帯インターネットを使う時間が長い事がわかった。

Q 6．携帯読書の使用時間

表21 携帯読書の使用時間（T短大生）

携帯読書の 使用時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	164	41	21	13	5	3	4	7
%	63.6	15.9	8.1	5.0	1.9	1.2	1.6	2.7

表22 携帯読書の使用時間（Ⅰ大生一女性）

携帯読書の 使用時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	150	26	11	2	0	1	0	0
%	78.9	13.7	5.8	1.1	—	0.5	—	—

表23 携帯読書の使用時間（Ⅰ大生一男性）

携帯読書の 使用時間	無	0～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5時間以上
N	129	20	1	1	0	1	0	0
%	84.9	13.2	0.7	0.7	—	0.7	—	—

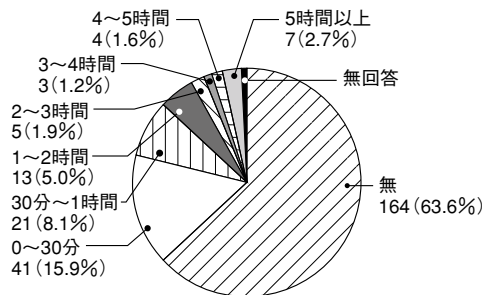


図15 携帯読書の使用時間（T短大生）

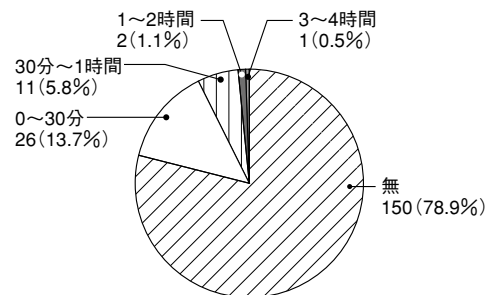


図16 携帯読書の使用時間（Ⅰ大生一女性）

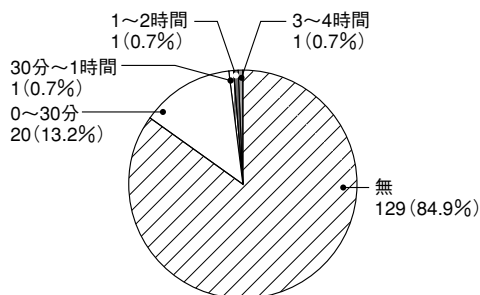


図17 携帯読書の使用時間（Ⅰ大生一男性）

表24

	T 短大生	I 大生－女性	I 大生－男性
I 大生－女性	**		N.S.
I 大生－男性	**		

**… 1 % 有意

表21～23、図15～17、及び表24からわかる様に、T 短大生が、I 大生より、1 % 有意で、調査時点で配信されている小説などの携帯読書の使用時間が長い事がわかった。今年を電子読書元年とマスコミで命名している様だが、この様な時代に、I-PADなど種々なIT機器が市場に出まわっている。このQ 6 と前述のQ 1 の結果を見ると、短大生は携帯を使って、読書をする者が多いという事の様だ。

Q 7. 1 日のメール数

表25 1 日のメール数（T 短大生）

1 日 の メール数	無	1 ～ 5 通	5 ～ 10 通	10 ～ 20 通	20 ～ 40 通	40 ～ 60 通	60 ～ 80 通	80 通以上
N	1	27	51	77	65	27	8	3
%	0.4	10.4	19.7	29.7	25.1	10.4	3.1	1.2

表26 1 日のメール数（I 大生－女性）

1 日 の メール数	無	1 ～ 5 通	5 ～ 10 通	10 ～ 20 通	20 ～ 40 通	40 ～ 60 通	60 ～ 80 通	80 通以上
N	3	56	63	41	20	5	2	0
%	1.6	29.5	33.2	21.6	10.5	2.6	1.1	—

表27 1 日のメール数（I 大生－男性）

1 日 の メール数	無	1 ～ 5 通	5 ～ 10 通	10 ～ 20 通	20 ～ 40 通	40 ～ 60 通	60 ～ 80 通	80 通以上
N	5	51	55	18	16	3	1	3
%	3.3	33.6	36.2	11.8	10.5	2.0	0.7	2.0

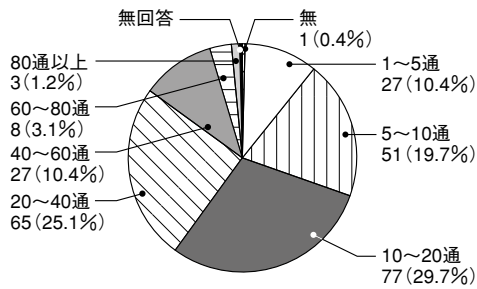


図18 1日のメール数（T短大生）

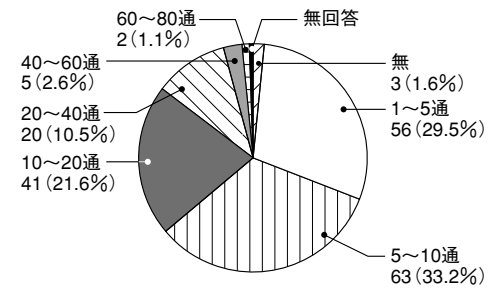


図19 1日のメール数（I大生－女性）

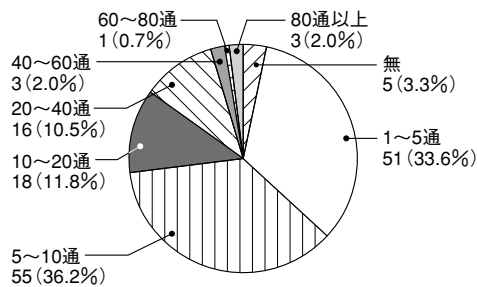


図20 1日のメール数（I大生－男性）

表28

	T短大生	I大生－女性	I大生－男性
I大生－女性	**		N.S.
I大生－男性	**		

***…1%有意

表25～27、図18～20、及び表28からわかる様に、T短大生が、I大生より、1%有意に、1日の携帯メール数が多い事がわかった。特にT短大生がI大生より、1日20通以上の者の比率が、2～3倍になっていて、この様な結果になったと思われる。これはQ1の考察で述べたものと、同じ様相を呈していた。なお性差については、前述の魚住絹代が、「中学生の女子では、ネット・メールが多い」と述べているが、I大の学力面でかなり高い学生の場合、差は無い事が明らかになった。むしろ、I大－男性に2.7%、T短大生に4.3%の1日60通以上のメールをしている、いわゆるメール依存症と思われる学生の存在が明らかになった。

Q 8. 携帯電話の開始時期

表29 携帯電話の開始時期（T短大生）

携帯電話の 開始時期	就学前	小 学 1・2年生	小 学 3・4年生	小 学 5・6年生	中学生	高校生	短大・大学生
N	0	3	12	55	141	46	2
%	—	1.2	4.6	21.2	54.4	17.8	0.8

表30 携帯電話の開始時期（I大生－女性）

携帯電話の 開始時期	就学前	小 学 1・2年生	小 学 3・4年生	小 学 5・6年生	中学生	高校生	短大・大学生
N	0	1	5	38	87	55	3
%	—	0.5	2.6	20.1	46.0	29.1	1.6

表31 携帯電話の開始時期（I大生－男性）

携帯電話の 開始時期	就学前	小 学 1・2年生	小 学 3・4年生	小 学 5・6年生	中学生	高校生	短大・大学生
N	0	0	2	20	77	50	3
%	—	—	1.3	13.0	50.0	32.9	2.0

表32

	T短大生	I大生－女性	I大生－男性
I大生－女性	N.S.		N.S.
I大生－男性	N.S.		

表29～31、及び表32からわかる様に、有意差は認められなかった。この結果を他の項目と関連して推測すると、携帯電話をいつ使い始めようと、全く関係ない事が考えられる。

（B）現在の生活や考え

Q 9．就寝時間

表33 就寝時間（T短大生）

就寝時間	10時前	10～11時	11～12時	0～1時	1～2時	2～3時	3時以後
N	3	7	54	105	61	23	6
%	1.2	2.7	20.8	40.5	23.6	8.9	2.3

表34 就寝時間（I大生－女性）

就寝時間	10時前	10～11時	11～12時	0～1時	1～2時	2～3時	3時以後
N	0	5	36	80	41	19	9
%	—	2.6	18.9	42.1	21.6	10.0	4.7

表35 就寝時間（I大生－男性）

就寝時間	10時前	10～11時	11～12時	0～1時	1～2時	2～3時	3時以後
N	1	2	17	68	42	15	7
%	0.7	1.3	11.2	44.7	27.6	9.9	4.6

表36

	T短大生	I大生－女性	I大生－男性
I大生－女性	N.S.		N.S.
I大生－男性	N.S.		

Q 9 以後の質問は、それまでが（A）情報機器の使用に関してであったが、その使用による影響や、その使用の原因となるものが何なのかを見ようとするものである。その結果Q 9 では、表33～35、及び表36からわかる様に、有意差は認められず、T短大生も I 大生も同じ傾向を示した。

Q10. 睡眠時間

表37 睡眠時間（T短大生）

睡眠時間	4時間未満	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8～9時間	9～10時間	10時間以上
N	13	75	98	62	6	5	1	0
%	5.0	28.8	37.7	23.8	2.3	1.9	0.4	—

表38 睡眠時間（I大生－女性）

睡眠時間	4時間未満	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8～9時間	9～10時間	10時間以上
N	10	34	80	51	8	6	1	0
%	5.3	17.9	42.1	26.8	4.2	3.2	0.5	—

表39 睡眠時間（I大生－男性）

睡眠時間	4時間未満	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8～9時間	9～10時間	10時間以上
N	6	28	58	46	13	1	0	0
%	3.9	18.4	38.2	30.3	8.6	0.7	—	—

表40

	T短大生	I大生－女性	I大生－男性
I大生－女性	N.S.		N.S.
I大生－男性	N.S.		

表37～39、及び表40からわかる様に、有意差は認められなかった。

Q11. 排便の状態

表41 排便の状態（T短大生）

排便の状態	毎日スムーズ	毎日出るが出にくい	2～3日おき	4～5日おき	5～6日おき	1週間以上出ない
N	79	50	111	12	1	3
%	30.9	19.5	43.4	4.7	0.4	1.2

表42 排便の状態（I大生一女性）

排便の状態	毎日スムーズ	毎日出るが出にくい	2～3日おき	4～5日おき	5～6日おき	1週間以上出ない
N	81	31	66	6	1	2
%	43.3	16.6	35.3	3.2	0.5	1.1

表43 排便の状態（I大生一男性）

排便の状態	毎日スムーズ	毎日出るが出にくい	2～3日おき	4～5日おき	5～6日おき	1週間以上出ない
N	116	14	21	0	0	0
%	76.8	9.3	13.9	—	—	—

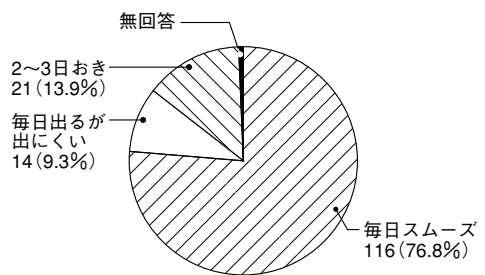
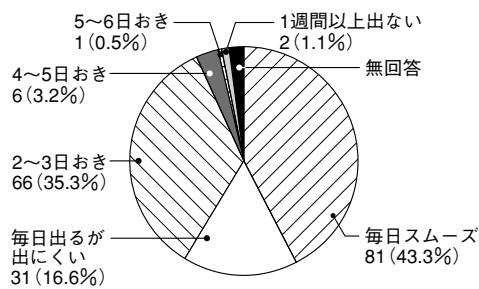


図21 排便の状態（I大生一女性）

図22 排便の状態（I大生一男性）

表44

	T 短大生	I 大生－女性	I 大生－男性	
I 大生－女性	N.S.		**	**…1%有意
I 大生－男性	**			

表41～43、図21、22、及び表44からわかる様に、I 大生の男性が、I 大生及びT 短大生の女性より、1%有意に排便がスムーズに行える事がわかった。女性の中には、4～5日おきの学生が約5%いて、健康上好ましくない者も見られた。なおこの性差は、身体構造上の違いからと考えられた。

Q12. 眼の疲れ具合

表45 眼の疲れ具合（T 短大生）

眼の疲れ具合	毎日目薬をさす	時々目薬をさす	時々疲れを感じる	全く疲れを感じない
N	21	74	141	21
%	8.2	28.8	54.9	8.2

表46 眼の疲れ具合（I 大生－女性）

眼の疲れ具合	毎日目薬をさす	時々目薬をさす	時々疲れを感じる	全く疲れを感じない
N	28	53	95	14
%	14.7	27.9	50.0	7.4

表47 眼の疲れ具合（I 大生－男性）

眼の疲れ具合	毎日目薬をさす	時々目薬をさす	時々疲れを感じる	全く疲れを感じない
N	10	37	85	19
%	6.6	24.5	56.3	12.6

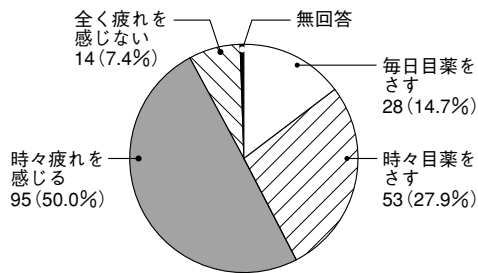


図23 眼の疲れ具合（I大生－女性）

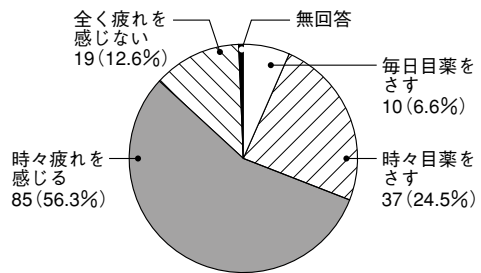


図24 眼の疲れ具合（I大生－男性）

表48

	T短大生	I大生－女性	I大生－男性
I大生－女性	N.S.		*
I大生－男性	*		

*…5%有意

表45～47、図23、24、及び表48からわかる様に、I大生の男性が、I大生及びT短大生の女性より、5%有意に、眼の疲れを、それ程感じていないという事がわかった。この性差は、身体上に違いがある、またはその身体上の変化を敏感にとらえられる、などで生じたものと考えられる。

Q13. 一番大事にしているもの

表49 一番大事にしているもの（T短大生）

一番大事にしているもの	友達	家族	お金	自分	恋人	趣味
N	51	129	8	41	15	4
%	20.3	51.4	3.2	16.3	4.8	1.6
一番大事にしているもの	スポーツなどの活動	世話になった特定の人	世話している特定の人	手に入れた物	将来の夢	その他
N	0	2	0	0	3	1
%	—	0.8	—	—	1.2	0.4

表50 一番大事にしているもの（Ⅰ大生－女性）

一番大事に しているもの	友 達	家 族	お 金	自 分	恋 人	趣 味
N	32	82	7	44	10	7
%	17.0	43.6	3.7	23.4	5.3	3.7
一番大事に しているもの	ス ポ ー ツ などの活動	世話になった 特 定 の 人	世話している 特 定 の 人	手に入れた物	将来の夢	その他
N	0	0	0	1	5	0
%	—	—	—	0.5	2.7	—

表51 一番大事にしているもの（Ⅰ大生－男性）

一番大事に しているもの	友 達	家 族	お 金	自 分	恋 人	趣 味
N	31	32	4	40	14	10
%	20.9	21.6	2.7	27	9.5	6.8
一番大事に しているもの	ス ポ ー ツ などの活動	世話になった 特 定 の 人	世話している 特 定 の 人	手に入れた物	将来の夢	その他
N	5	1	0	1	9	1
%	3.4	0.7	—	0.7	6.1	0.7

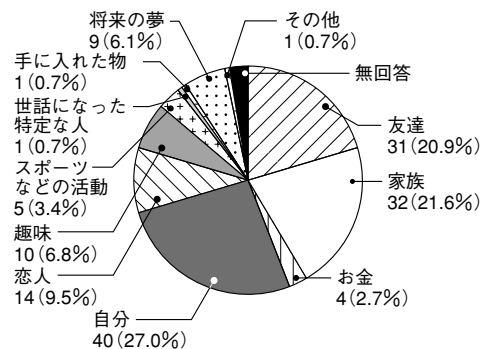
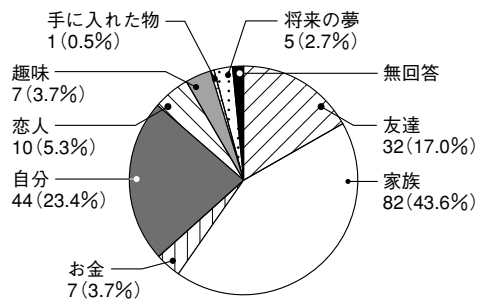


図25 一番大事にしているもの（Ⅰ大生－女性）

図26 一番大事にしているもの（Ⅰ大生－男性）

表52

	T 短大生	I 大生－女性	I 大生－男性	
I 大生－女性	N.S.		**	**…1%有意
I 大生－男性	**			

このQ13の質問も前述のQ1と同じ理由で、一番大事にしたいものの人数で整理してみた。それによると、表49～51、図25、26、及び表52からわかる様に、I大生の男性と、I大生及びT短大生の女性との間に、1%有意な性差が認められた。女性は、家族を一番に挙げる者が多いのに、男性は自分が一番多く、家族は二番目になっている。また男性は、スポーツや、将来の夢などを挙げる者が多い。

Q14. 親の愛情

表53 親の愛情（T短大生）

親の愛情	十分受けた	まあ受けた	受けたかわからない	あまり受けなかった	全然受けなかった
N	186	65	4	2	1
%	72.1	25.2	1.6	0.8	0.4

表54 親の愛情（I大生－女性）

親の愛情	十分受けた	まあ受けた	受けたかわからない	あまり受けなかった	全然受けなかった
N	138	43	8	1	1
%	72.3	22.5	4.2	0.5	0.5

表55 親の愛情（I大生－男性）

親の愛情	十分受けた	まあ受けた	受けたかわからない	あまり受けなかった	全然受けなかった
N	97	43	9	0	3
%	63.8	28.3	5.9	—	2.0

表56

	T 短大生	I 大生－女性	I 大生－男性
I 大生－女性	N.S.		N.S.
I 大生－男性	N.S.		

表53～55、及び表56からわかる様に、有意差は認められなかった。

Q15. 絵・写真や音楽の情報が好き

表57 絵・写真や音楽の情報が好き（T 短大生）

絵・写真や音楽の情報が好き	そうである	どちらかという そうである	そうでない
N	139	102	16
%	54.1	39.7	6.2

表58 絵・写真や音楽の情報が好き（I 大生－女性）

絵・写真や音楽の情報が好き	そうである	どちらかという そうである	そうでない
N	72	74	45
%	37.7	38.7	23.6

表59 絵・写真や音楽の情報が好き（I 大生－男性）

絵・写真や音楽の情報が好き	そうである	どちらかという そうである	そうでない
N	67	53	30
%	44.7	35.3	20.0

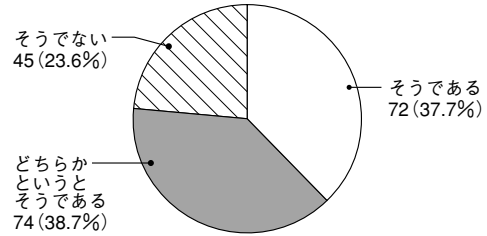
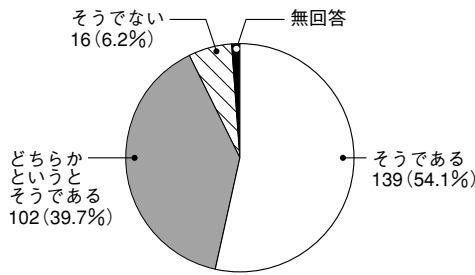


図27 絵・写真や音楽の情報が好き（T短大生）

図28 絵・写真や音楽の情報が好き（I大生－女性）

表60

	T短大生	I大生－女性	I大生－男性
I大生－女性	**		N.S.
I大生－男性	**		

**…1%有意

表57～59、図27、28、及び表60からわかる様に、T短大生とI大生の間に、1%有意差が認められた。すなわち短大生の方が、絵・写真及び音楽の情報が好きと答えた者が多く、いわゆる活字離れといわれる現象が進んでいる事がわかった。

Q16. 一番認めてもらいたい人

表61 一番認めてもらいたい人（T短大生）

一番認めてもらいたい人	親	きょうだい	友達	先輩	恋人	先生	メル友 ネット仲間
N	152	4	62	3	17	3	1
%	62.8	1.7	25.6	1.2	7.0	1.2	0.4

表62 一番認めてもらいたい人（I大生－女性）

一番認めてもらいたい人	親	きょうだい	友達	先輩	恋人	先生	メル友 ネット仲間
N	89	2	74	7	10	4	1
%	47.6	1.1	39.6	3.7	5.3	2.1	0.5

表63 一番認めてもらいたい人（I大生－男性）

一番認めて もらいたい人	親	きょうだい	友達	先輩	恋人	先生	メル友・ ネット仲間
N	46	3	66	6	16	4	0
%	32.6	2.1	46.8	4.3	11.3	2.8	－

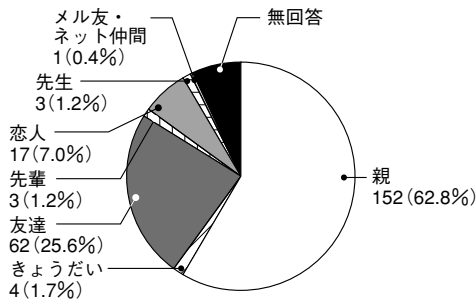


図29 一番認めてもらいたい人（T短大生）

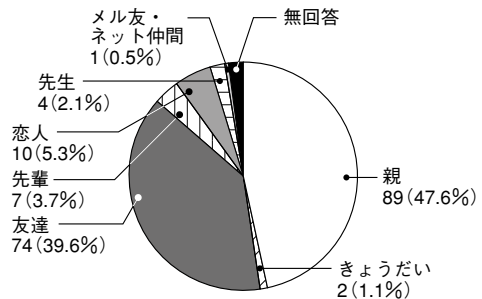


図30 一番認めてもらいたい人（I大生－女性）

表64

	T短大生	I大生－女性	I大生－男性
I大生－女性	*		N.S.
I大生－男性	*		

*…5%有意

このQ16の質問も前述のQ1、Q13と同じ理由で、一番認めてもらいたい人の人数で整理してみた。それによると、表61～63、図29、30、及び表64からわかる様に、T短大生とI大生の間に、5%有意差が認められた。これは短大生の方が、大学生より、親に一番認めてもらいたいと思っている学生が多いという事である。すなわち、短大生はあまり親に認められる機会が少ない者である事が推測される。一方、大学生は友達や先輩など、同年齢の者に認められたい人が比較的多い。

IV. まとめ

多くの現代人が受け入れてる情報機器の使用が、人格形成にどのような影響を及ぼすかを知る為、首都圏の短大生260名（女性）、大学生（女性191名、男性152名）計603名を対象に、アンケート調査を行った。そして、今回は紙面の関係から、情報機器の

使用の実態、及び現在の生活や考えの実態の2つの単純集計と、短大生と大学生の差、及び男女の性差を視座に入れて分析したものを報告する事にした。その結果以下の事が明らかになった。

1. 情報機器の使用の実態の質問について、短大生と大学生に有意な差が認められたのは、①一番使用する機器で、短大生が大学生より、「携帯メール」が多い。②視聴の全時間で、短大生が大学生より長い。③携帯メールの使用時間で、短大生が大学生より長い。④携帯インターネットの使用時間で、短大生が大学生より長い。⑤携帯読書の使用時間で、短大生が大学生より長い。⑥一日のメール数では、短大生が大学生より多い。の6つの項目である。
2. 情報機器の使用の実態の質問について、男女間で有意な差が認められたのは、①携帯ゲームの使用時間で、大学生の男性が、大学生の女性、短大生より長い。②インターネットの使用時間は、大学生の女性、短大生が、大学生の男性より長い。の2つの項目である。
3. 現在の生活や考えの実態の質問について、短大生と大学生に有意な差が認められたのは、①絵・写真や音楽の情報が好きで、短大生が大学生より、「そうである」と回答する者が多い。②一番認めてもらいたい人で、短大生が大学生より、「親」を挙げる者の数が多い。の2つの項目である。
4. 現在の生活や考えの実態の質問について、男女間で有意な差が認められたのは、①排便の状態で、大学生の男性が、大学生の女性、短大生より、「スムーズ」な者が多い。②眼の疲れの具合では、大学生の女性、短大生が、大学生の男性より、「疲れを感じている」者が多い。の2つの項目である。

参考文献

- 1) 岡田尊司『脳内汚染』文芸春秋, 2005.
- 2) 柳田邦男『壊れる日本人：ケータイ・ネット依存症への告別』新潮社, 2005.
- 3) A. N. ジョインソン著, 三浦麻子他訳『インターネットにおける行動と心理』北大路書房, 2004.
- 4) Morahan-Martin.J., Schumacher.P. "Incidence and correlates of pathological Internet use among college students. Computers in Human Behavior" 16, p.13-29.
- 5) アメリカ、ピュー財団『インターネットとアメリカ人の生活』アメリカ、ピュー財団, 2000.
- 6) Boneva.B., et al. "Using e-mail for personal relationships, the difference gender makes." American Behavioral Science, 2001, 45(3), p.530-549.
- 7) 松永和紀『メディア・バイアス：あやしい健康情報とニセ科学』老文社. 2007.
- 8) 魚住絹代『いまどき中学生白書』講談社, 2006.

資料1

「情報化時代の人格形成」に関するアンケートのお願い

情報化時代に生きる我々世代は、種々のIT機器を日頃使って生活しています。さてそこで、その様な機器の使用が、人格形成にどの様に影響するのか、また、どの様な人がIT機器をどの様に使っているかなどを調べる為、以下の様なアンケート用紙を作りました。この回答結果は研究用のみ使用し、無記名回答なので、プライバシーの問題が生ずる事は一切ありません。どうか事実をそのままお書き頂ければ、有難いと思います。ご協力よろしくお願いします。

平成21年 吉日 萩原英敏

A. 情報機器の使用に関して

Q 1. 今使用している機器で、よく使用する順を、1 から順に番号をつけて下さい。

- ☐ 携帯メール ☐ 携帯電話 ☐ I-PAD ☐ PCメール
☐ 携帯ゲーム ☐ PCゲーム ☐ 携帯インターネット
☐ PCインターネット ☐ 携帯読書 ☐ テレビ ☐ DVD
☐ ラジオ ☐ CD ☐ その他 ()

Q 2. 今この機器を視聴している全時間は、平日で大体何時間ぐらいですか？（1つ丸を）

- ☐ 無 ☐ 0～30分 ☐ 30分～1時間 ☐ 1～2時間
☐ 2～3時間 ☐ 3～4時間 ☐ 4～5時間 ☐ 5時間以上

Q 3. この中で、携帯メールの使用時間は、平日で大体何時間ぐらいですか？（1つ丸を）

- ☐ 無 ☐ 0～30分 ☐ 30分～1時間 ☐ 1～2時間
☐ 2～3時間 ☐ 3～4時間 ☐ 4～5時間 ☐ 5時間以上

Q 4. この中で、携帯ゲームの使用時間は、平日で大体何時間ぐらいですか？（1つ丸を）

- ☐ 無 ☐ 0～30分 ☐ 30分～1時間 ☐ 1～2時間
☐ 2～3時間 ☐ 3～4時間 ☐ 4～5時間 ☐ 5時間以上

Q 5. この中で、携帯インターネットの使用時間は、平日で大体何時間ぐらいですか？（1つ丸を）

- ☐ 無 ☐ 0～30分 ☐ 30分～1時間 ☐ 1～2時間
☐ 2～3時間 ☐ 3～4時間 ☐ 4～5時間 ☐ 5時間以上

Q 6. この中で、携帯読書の使用時間は、平日で大体何時間ぐらいですか？（1つ丸を）

- () 無 () 0～30分 () 30分～1時間 () 1～2時間
() 2～3時間 () 3～4時間 () 4～5時間 () 5時間以上
- Q 7. 携帯メールは、平日1日で、大体何通ぐらい送りますか？(1つ丸を)
- () 無 () 1～5通 () 5～10通 () 10～20通
() 20～40通 () 40～60通 () 60～80通 () 80通以上
- Q 8. 携帯電話は、いつごろから、使用するようになりましたか？(1つ丸を)
- () 就学前 () 小学校1・2年生 () 小学校3・4年生
() 小学校5・6年生 () 中学生 () 高校生 () 短大・大学生

B. 現在の生活や考えに関して

- Q 9. 平日は、大体何時頃、就寝していますか？(1つ丸を)
- () 10時前 () 10～11時 () 11～12時 () 0～1時
() 1～2時 () 2～3時 () 3時以後
- Q 10. 平日の睡眠時間は、大体何時間ぐらいですか？(1つ丸を)
- () 4時間未満 () 4～5時間 () 5～6時間 () 6～7時間
() 7～8時間 () 8～9時間 () 9～10時間 () 10時間以上
- Q 11. 平日の排便の状態は、如何ですか？(1つ丸を)
- () 毎日スムーズに出る () 毎日出るが出にくい
() 2～3日おきに出る () 4～5日おきに出る
() 5～6日おきに出る () 1週間以上出ない事が多い
- Q 12. 平日の眼の疲れ具合は、如何ですか？(1つ丸を)
- () 毎日目薬をさす必要がある程、疲れている
() 時々目薬をさす程度、疲れている () 時々疲れを感じる
() 全く疲れを感じない
- Q 13. あなたが一番大事にしているのは、次のどれですか、1から順に番号をつけて下さい。
- () 友達 () 家族 () お金 () 自分 () 恋人 () 趣味
() スポーツなど活動 () 今までお世話になった特定の人
() 今お世話している特定の人 () 今までに手に入れた物
() 将来の夢 () その他()
- Q 14. あなたは親に今まで、愛情を受けて育って来たと思いますか？(1つ丸を)
- () 十分に受けた () まあ受けた () 受けたかわからない
() あまり受けなかった () 全然受けなかった
- Q 15. あなたは、文字情報より、絵・写真や音楽などの情報が好きですか？(1つ丸を)
- () そうである () どちらかという、そうである
() そうではない

Q16. あなたが一番認めてもらいたい人は誰ですか？（1つ丸を）

- ☐ 親 ☐ きょうだい ☐ 友達 ☐ 先輩 ☐ 恋人
☐ 先生 ☐ メル友・ネット仲間